

☆「音をカタチであらわす」(深谷怜伸)

「メディアアート」あまり聞いたことがないかもしれませんが、多くの人が一度は見たことがあると思います。

例えばリオデジャネイロ五輪オリンピック・パラリンピックの各閉会式での東京大会の紹介、NHK紅白歌合戦での「Perfume」の映像制作などです。

これらの作品は日本のグループ「ライゾマティクスリサーチ」の作品で、今回僕が取材した東京オペラシティーの4階にあるICCの企画展にも海外のグループ「アート+コム」の作品と共に展示しています。

ここでの作品は、5台の側面がガラスで囲われているカートが空間内を移動し様々な動きをする様子はまるでダンスを踊っているかのようでした。

しかし、それだけでわなくそこにプロジェクターから映像を投影することで床やカートなどに投影し像を作っています。

この作品は2次元のものが3次元に見えるという錯覚を使い立体に見えるもので次第に目の感覚が変になりました。

音を映像で表していたので是非他の音でも見てみたいと思いました。

2020東京五輪の開会式での活躍を期待したいです。